

北里大学病院・北里大学東病院(旧)を受診された患者さんへ

当院では下記の臨床研究を行っています。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお申し出ください。

研究課題名 (受付番号/承認番号)	新鮮腸骨海綿骨由来の間葉系細胞と凍結保存された骨組織由来の間葉系幹細胞における代替骨組織の研究として、エクソソームの果たす役割とその重要性に関する研究 (B18-138)
当院の研究責任者 (所属・職位)	医学部 形成外科・美容外科学 診療講師 杉本 佳香
他の研究機関および 各施設の研究責任者	他の研究機関はありません。
本研究の概要・背景・目的	<p>研究の概要と背景 新鮮腸骨海綿骨由来の間葉系細胞と凍結保存された骨組織由来の間葉系幹細胞における代替骨組織の研究として、エクソソーム¹の果たす役割とその重要性に関する研究を行っています。</p> <p>1 エクソソームとは・・・ エクソソームとは、1983年に羊の網状赤血球から発見されたのを機に、様々な細胞から分泌されていることが報告された大きさ40-100nmの細胞外粒子です。エクソソームは生体が持つ天然の情報伝達システムと呼称されることもあり、癌の転移機構や、免疫応答システムの一環であるとする研究や、組織が再生するときの機構に深くかかわっている可能性があると言われていたたんぱく質の一種です。</p> <p>研究の目的 凍結保存されていた骨髄由来間葉系幹細胞と、新鮮腸骨海綿骨・上顎骨・下顎骨由来の間葉系幹細胞の骨形成能を比較検討します。各々の細胞が分泌するエクソソームを回収し、骨形成能と、生体内でのエクソソームによる骨形成能に果たす役割について検討を行います。 将来自家再生組織移植目的に凍結保存期間の影響も比較検討します。また当科では10年以上凍結保存された骨組織由来間葉系細胞も長期凍結保存検体として研究に供します。</p>
調査データ 該当期間	1998年7月1日～2028年3月31日まで
対象となる患者さん	<p>上記期間に行われた顎裂部骨移植手術の際に提供頂いた余剰腸骨組織からの細胞で、現在も凍結保存されている検体</p> <p>・これから行われる手術で、腸骨、顎骨、歯槽骨等の余剰組織を研究に用いることに対し同意いただいた方の検体</p> <p>尚、現在も定期的に通院の患者様とご家族には改めて研究のご説明とご承諾を頂きます。</p>
研究の方法 (使用する試料等)	<p>研究項目に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間葉系幹細胞からエクソソームを回収、確認 ・間葉系細胞の多分化能 (新鮮検体と凍結保存検体) エクソソーム添加時における多分化能の確認 ・細胞老化現象を測定 ・代替再生骨の骨形成能の検討等を予定しています。
試料/情報の 他の研究機関への 提供 および提供方法	他の機関への試料・情報の提供はありません。

個人情報取り扱い	<p>利用する情報から氏名や住所等の患者さんを直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。</p>
本研究の資金源 (利益相反)	<p>本研究の遂行のための費用は、研究費(北里大学医局研究費、日本学術振興会科研費若手研究費など)を使用します。 研究に関する利益相反は、北里大学利益相反委員会で審査を受け、適切に管理されます。</p>
お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。</p> <p>ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究の対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には提供していただいた試料・情報に基づくデータを結果から取り除くことができない場合がありますが、公表される結果には特定の個人を識別することができる情報は含まれません。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先: 所属・職位:北里大学病院 形成外科・美容外科 診療講師 担当者:(フリガナ) 杉本 佳香(スギモト ヨシカ) 電 話:042 - 778 - 9074</p>
備 考	